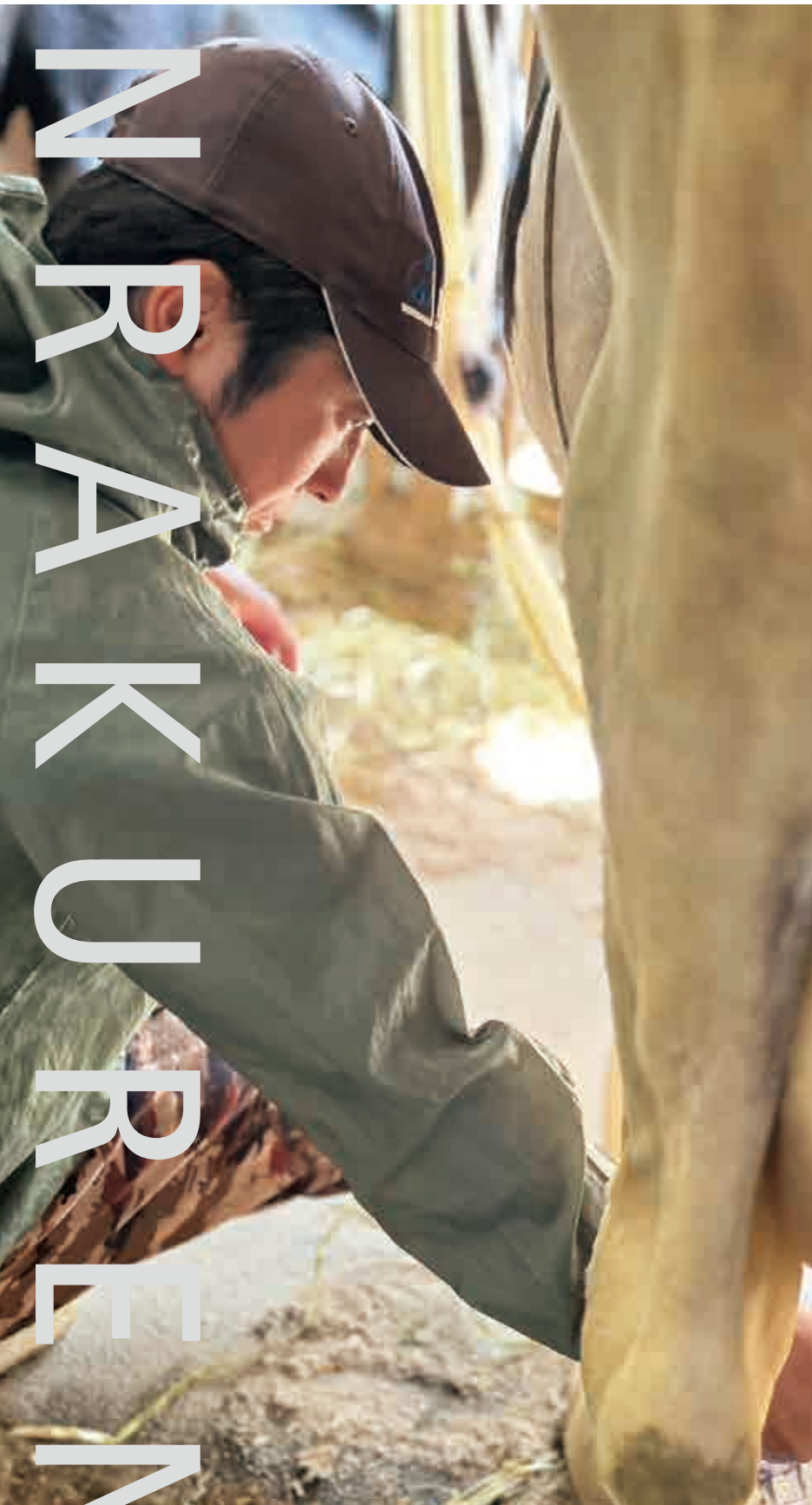


# 全酪連会報 12

2024 DEC No.711



若手後継者の本音／  
西村翔さん

第28回  
ロイヤル・ウィンターフェア視察と  
カナダ酪農視察研修

全酪アカデミー卒業生  
3組目が福岡で就農開始

令和6年度  
製造技術体験発表会・研修会を  
開催いたしました

酪農業に対する  
理解醸成活動報告❶

日本酪農見て歩紀／  
馬場牧場(北海道夕張郡由仁町)

臨時総会開催される

酪農トピックス／  
「商品開発研修会」及び  
「営業交渉研修」の開催について(酪農部)ほか

(一社)全国酪農協会の  
酪農共済制度のご紹介 第2回

(一社)全酪アカデミー活動報告

第7回 らくのうマルシェ開催のお知らせ

LINE公式アカウントができました！  
登録をお願いします！



 全国酪農業協同組合連合会

## 概要

今回取材させていただいたのは群馬県伊勢崎市にある西村牧場の後継者、西村翔さん（29歳）です。伊勢崎市は、群馬県で4番目の都市であり、埼玉県にも隣接しています。近年は伊勢崎オートリース場近辺に商業施設が集まり発展しています。西村牧場はそんな街の一角にあります。夏は最高気温が40℃を記録することもあり、日本有数の厳しい気候の地域です。西村牧場が所属する明友酪農業協同組合は組合長がお父様である西村和博氏で、生乳出荷戸数23戸、令和5年度の生乳受託乳量は約6,600tでした。

## 牧場紹介

西村牧場は対尻式の繋ぎ牛舎で約40頭の経産牛を飼養しています。家族3人で営んでおり、お父様が畑作業と堆肥関係、お母様と翔さんが主に牛舎作業を担当しています。街中の住宅街という立地ながら、コントラクターを活用して、十分な量の自給飼料を確保しています。近年は育成牛を持たず全て和牛種を授精し、北海道からの初妊牛導入主体の経営をしています。翔さんは朝晩の牛舎



▲西村翔さん

今回は、群馬県伊勢崎市西村牧場の後継者西村翔さんにお話を伺いました。

作業に加え、日中は3人の幼いお子さんの育児も担っており、多忙な日々を送っています。

今回は翔さんに就農の経緯や就農してから感じたこと、今後の目標について伺ってみました。

## 就農の経緯

実は昔は実家を継ぎたいとは考えていませんでした。世間一般のイメージ通り酪農は臭くて汚く、休みがないというイメージがありました。正直、やりたくありませんでした。

そのため就農は考えず、高校は家の近くの園芸コースのある公立高校に進学し、将来は違う道に進もうと考えていました。高校時代は家の手伝いをしながら、アルバイトもできずに不満に思っていました。それでも高校卒業後はせっかく他の人にはない、敷かれていくルールがあるならと考え、県内の農林大学校に入りました。親も若いころ苦労をした経験からどうしても継いでほしいという気持ちはなかったようですが、3人の姉をもつ末っ子長男ということもあり、家の事情や周りの環境から結局実家を継いで就農することにしました。

大学卒業後は実家に入る前に、県内の2つの牧場で2年間修業に行きました。他の牧場で働くことで、社会人としての働き方を学び、同時に酪農の面白いところにも気づかされました。また、これまで抱いていた酪農に対するイメージも、どう

やったら臭いを抑えられるかといった工夫の余地があるところに魅力を感じるようになりました。

牧場での修行後、22歳のときに実家に就農しました。はじめは従業員として働くことと親の元ではたらくこととの違いに戸惑いを感じました。しかし家業を継ぐということは牛の生死にかかわる大きな責任を伴うことを実感し、牛の体調や病気、発情などをより注意深く観察するようになりました。

## 就農してから感じたこと

酪農の面白いところは、同じ酪農家でもそれぞれが異なる考え方や取り組みを持っていることです。最終的な目標は生乳を生産して収入を得ることで同じですが、乳量を重視するのか繁殖を重視するのかなど、牛の飼育にも様々な方法があるのが興味深いです。

特に人間が牛のためにはと思って実施することが、良い方にも悪い方にも反応が起ることは酪農の面白いところだと思っています。獣医師と相談して飼料の量を調節することで、乳量や繁殖に良い影響があったときは酪農の醍醐味を感じます。飼料の量を工夫したことで以前より助張りが良



▲西村牧場外観 住宅街の中にある

# 若手後継者の 本音

Vol.72



▲ コーンサイレージ  
や醤油粕を使用し  
ている



▲ 設置型の  
TMRミキサー



◀ 自走給餌車でTMRを  
給与している

## 【経営概況】

所 属 明友酪農業協同組合(西村和博代表理事組合長)

家族構成 お父様、お母様、翔さん

飼養頭数 経産牛:約40頭

## 牛の飼い方も様々 それが酪農の醍醐味！

い牛になってきていることは目に見えて実感できるのですね。一方で、乳量のことばかり考えてしまうと、繁殖が悪くなったり病気になるたりしてしまうのは難しさを感じます。

### 今後の目標

大きな規模拡大はあまり考えていません。夢がないように聞こえるかもしれませんが、現状の場所と設備で、できる中での最大化をしていきたいと考えています。最大で40頭近く搾れるのですが、牛床をフルに使えていない現状があります。少しずつ増頭をして搾乳頭数を増やしていきたいと考えています。

また、現在全て和牛の種付けを行っており、自家育成はしていません。場所や手間の問題はありますが、せっかくなので自分の牧場の牛が欲しいという気持ちはあります。繁殖についてもまだまだ改善していきたいと感じています。兆候が弱い牛などは発情を見逃してしまつこともあるので、飼料の内容の見直しも含めて改善していきたいと考えています。

現在、畑作業や飼料の選定は父親が担当しています。今は朝晩は牛舎作業、日中は育児と、時間に余裕がないですが、子どもたちが全員学校に通い始めたなら、畑作業の方も積極的に取り組みたいと考えています。トラクターを交通量の多い街中で運転するのはまだ慣れていないため、まずは運転の練習から始めていきたいです。この間、組合の移行期の勉強会に参加しました。

初めて勉強会に参加したのですが、改めて酪農における学びの重要性を実感しました。数字を見るのは苦手なのですが、飼料の内容や牛群検定のデータについてももっと勉強して、より良い酪農経営に活かしていきたいと考えています。

そして、将来的な目標として少なくとも60歳まで酪農を続けていきたいです。

### 最後に

ご多忙の中、快く取材を引き受けていただいた西村翔さんに感謝申し上げます。昔は酪農を継ぐつもりがなかった

翔さんが大学校や他の牧場での修業期間、実家での就農を経て酪農を面白く感じるようになったという話が印象的でした。若手後継者の翔さんが最低でも60歳まで酪農を続けたいとおっしゃっているのとても勇気もらえるお話でした。

西村牧場の益々のご発展とご活躍をお祈り申し上げます。

### 全国の若手後継者の皆さんへの一言！

毎日の仕事も大事ですが自分の身体、家族はそれ以上に大事です。休みはしっかりとって家族時間、趣味の時間を作り、リフレッシュしながら1日でも多く牛乳を搾りましょう。





第28回

# ロイヤル・ウィンターフェア視察と カナダ酪農視察研修

令和6年11月5日(火)から10日(日)までの6日間、(一社)全国酪農協会主催の「第28回ロイヤル・ウィンターフェア視察とカナダ酪農視察研修」が開催されました。新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、5年ぶりの開催となった今年の視察研修の参加者は、第49・50・51回全国酪農青年女性酪農発表大会の発表者8名を含む総勢15名。羽田空港での結団式を終え、約12時間のフライトを経て、カナダ・オンタリオ州トロント市に到着しました。



11月5日(火)  
日本(羽田)からカナダへ

羽田空港内の会議室で開催された結団式では、(一社)全国酪農協会の岡田常務理事の主催者挨拶の後、参加者全員による自己紹介を行い、酪農とちぎ農業協同組合白井勉代表理事組合長が今回の視察団長として指名され、視察研修への思いと旅の安全を参加者に呼びかけ搭乗手続きに進みました。

飛行機は予定通りに羽田空港を出発、約12時間のフライトでカナダ・オンタリオ州トロントに到着しました。(日本との時差はマイナス14時間)

現地時間17時過ぎに空港に到着し、入国審査では数人別室へ案内されるなど波乱万丈!?のスタートとなってしまうかと思いきや、すぐに解放され予定通りのスタートを切ることが出来一安心。初日は空港近くのレストランにてカナダの名物・サーモンステーキをいただき、研修の成功を祈願しながら皆で乾杯。その後トロント市内のダウンタウンエリアのホテルへ到着し無事に1日目終了しました。

## ●行程表

- 11月5日(火) 羽田空港からカナダ(トロント)へ
- 11月6日(水) 牧場視察
- 11月7日(木) チーズ工房視察・ナイアガラの観光
- 11月8日(金) ロイヤルウィンターフェア2024視察
- 11月9日(土) 空路、トロントから日本(羽田空港)へ
- 11月10日(日) 帰国後、解散

## 11月6日(水) サミットステーション視察

午前7時にバスに乗り農場視察に出発。この日の気温は最高21℃。寒さ対策は万全にしてきたのに…。この視察中は北海道のほうが寒い!そんな日が続きました。ここまで暖かいのは珍しいそうですが、日本のみならずどこも温暖化の影響を受けているのだな、と感じました。現地ガイドの案内を聞きながら、トロントの渋滞を抜けハミルトン方面へ2時

間程（現在トロント市内の通勤渋滞は非常に深刻）、車窓からの景色は広大な草地へとかわり、まもなく目的地のサミットステーション（旧サミットホルム牧場）へ到着しました。頭の中で思い描く「THE・牧場」という広大な景色が広がった光景を眺めていると、本日案内をしてくださるデビットさんが笑顔で迎えてくれました。

### 【牧場概要】

- ・1939年にチエコスロバキアより入植し、1947年に農場の運営を開始
- ・「能力・体型の両方を追求した経営は成功しない」との考えから能力指向型（1.能力、2.長命性）で経営
- ・所有者：LOWERTH FAMILY
- ・飼養頭数：1,000頭  
（搾乳牛450頭、  
未経産牛550頭）
- ・搾乳回数：平均3回搾乳
- ・1頭あたりの平均生乳生産量：14,000 kg
- ・耕作面積：400 ha
- ・労働人員：フルタイム従業員6名、パート従業員25名

今回案内していただいたデビット氏は、初代ジョー氏の息子さんです。週に1回開催する牧場ツ



▲ サミットステーション牛舎内



サミットステーション店舗 ▶

アー（25名/回）は毎週売り切れる大盛況とのこと。視察の受け入れに非常に慣れており、気さくな人柄でたくさんの方の質問に丁寧に答えて頂けました。

フリーストール牛舎、哺育ハッチ、パーラーと案内していただきました。搾乳は1日3回。1グループ100頭で、搾乳は1時間、5グループを2名のスタッフでまわしています。

長命連産をモットーとしており、年齢を重ねた牛を更新するという考え方ではなく、何度も妊娠して産んでくれた牛を残すことを大事にされています。「生涯乳量16万kgを出し8〜10産する牛もいる。」とおっしゃっていました。

フリーストールで、敷料には砂を使用していました。「砂はとも牛にとつて良いもので、乳房炎にもなりづらく、牛体も汚れない。衛生に守ってくれる。」とのことで、参加者からもたくさんの方が集まっていました。

最後に牧場に新たに併設された店舗を見学しました。昨年からは6次化をスタートされたとのことで、ガラス張りの店内からは中のチーズ工房の様子も見学できました。牛乳乳製品・チーズ・グッズ（牧場のTシャツやバッグなど）・地元のお土産なども多数販売されていて、お土産をたくさん購入することができました。

### ボズデール牧場視察

昼食をとりケンブリッジ方面へ、次の視察先、ボズデール牧場に到着しました。

案内はジョーシユ氏。繋ぎ牛舎

### 【牧場概要】

- ・1948年にオランダより入植し、1958年に農場の運営を開始
- ・多くのブリーダー賞を受賞している農家（ロイヤルウインターフェア2024にも出品）
- ・現在エクセレント80頭、ベリーグッド110頭、グッドプラス30頭を保有
- ・飼養頭数：400頭、内190頭が搾乳牛  
豚も800頭程飼育
- ・搾乳回数：□ポット搾乳の平均搾乳回数は2・8回程度に調整
- ・1頭あたりの平均生乳生産量：11,800 kg
- ・耕作面積：700 ha
- ・労働人員：15名。メインは親族経営で1名雇用

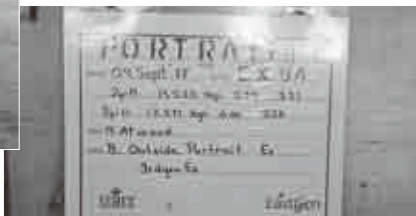
へ案内された後は、「どこでも自由に見ていいよ。」とそれぞれで牧場内を視察。繋ぎ牛舎では主にエクセレント牛を中心に管理されていました。体型審査で94点を叩き出した搾乳牛に皆さん興味津々。個体ごとの管理が徹底されていました。隣にはフリーストール牛舎。デラバル社のロボット搾乳機が3台稼働していました。

給餌しているアルファルファはあ

ボズデール牧場の数々の受賞履歴 ▶



ボズデール牧場エクセレント牛 ▲▶



えてカットせずそのままたべさせているとのことでした。

どちらの牧場でも時間が足りないほど、たくさん質問が次から次に参加者から上がり、農場視察はとても熱い内容となりました。夏の暑さ対策の質問はどちらの牧場でも上がりましたが、両牧場とも「暑くても乳量は下がったりしない。」との回答。牛舎内は40℃になる日もあると

のことでしたが、日本との違いはどこにあるのでしょうか。

11月7日(木)

### アップーカナダチーズカンパニー訪問・ ナイアガラ観光

3日目はチーズ工房へ。2005年に設立されたUPPER CANADIAN CHEESE COMPANYはワイナリーが100軒並ぶナイアガラ地区唯一のチーズ工房です。地元の新鮮なガンジーミルクと健康的なヤギのミルクで作られた受賞歴のあるチーズを幅広く取り揃えていました。ガンジーミルク100%のチーズを製造しているのはカナダでもこの工房だけです。ガンジー牛のミルクは今、日本でも話題のベータカロチンA2や、ベータカロチン、オメガ3の含有量が高く、乳脂肪とたんぱく質も豊富なミルクです。時期によって牛乳の質が変わるので季節ごとに違った味のチーズができ、多様なチーズができるとのことでした。「ナイアガラ地区唯一の工房だからこそ、ワイナリーに合う特別なチーズ工房であることを重要にしている。」とおっしゃっていました。また、店舗では地域で生産されるもの

市内観光 ▶▶



晴天の  
ナイアガラの滝



も数多く販売されていて、できる限り同じ州で生産されたもののみを置くようにして、地域活性化を目指しているそうです。チーズの製造をされている参加者の方もおり、家族経営規模のこの工房は参考になることも多かったのではないのでしょうか。時間ギリギリまで質問は絶えま



アップーカナダ ▲▶  
チーズカンパニー

せんでしたが、チーズ職人のクラウドさんは丁寧な回答してくれました。4つのチーズを試食し、それぞれが違った風味を確認しながら、私ははじまりのチーズ「ナイアガラゴールド」を購入しました。  
チーズ工房視察の後はアメリカとの国境に位置するナイアガラの

滝へ移動しました。目に見える先は違う国。というのはとても不思議な感覚でした。橋を渡ってアメリカに行ってみたかったです。簡単にに行けるのかは分かりませんが…。世界三大瀑布と呼ばれるだけあり、もの凄い迫力でした。かつては年間1m以上のペースで削られ、上流のエリー湖に向かってどんどん後退しているとのことでしたが、現在は滝の保全のため、水量は水門で調整しているとのこと。今は年間数センチ程度削られるだけで収まっているそうです。

11月8日(金)

## ロイヤル・ウィンターフェア 2024視察

いよいよメインイベントのロイヤル・ウィンターフェア視察です。会

場はトロント市内中心地のCNタワー近く、農畜産物の品評会において室内で行われる共進会では世界最大級のことです。今年は11月1日〜10日まで開催され、北米全域から集められた様々な農産物の展示・品評会、競売が行われます。メイン会場で行われるナショナルホルスタインショー及び、ホルスタイングランドチャンピオンパレードが行われる日に合わせて視察を行いました。

東京ドーム17個分という会場内には酪農関連以外にも食料品、化粧品、衣類、車、トラクターなど様々なブースが並び、子供向けアトラクション、フードコートなど日本で考えられないような共進会ではなく一般的な展示会で、市民にも非常に有名なイベントであることを知りました。業界関係者だけでなく、多くの一般消費者の方が来場し、お子さまを連れてご家族をたくさん見かけ、また、学校単位での来場も多く、教育の場として活用されていました。ショーに出品される牛が並ぶバックヤードは、一般参加者も入ることができ環境に驚き、牛や羊をスケッチしている方がたくさんいたことが印象的でした。

共進会が行われるメイン会場ほどの角度からも見えるように観戦用の大きなTVモニターが釣り下がっていて映像が常時流れていました。共進会の最後を飾るグランドチャンピオンの審査では、会場の照明が落とされスポットライトとBGMで会場の雰囲気が一気に高まります。拍手喝采と歓声があがり、審査委員長が並んでいる牛、1頭1頭に近づいたり離れたりと揺さぶりをかけて期待が膨らんだ瞬間に最終ジャッジが行われました。グランドチャンピオン受賞者と強く抱き合い、会場は拍手と大きな歓声に包まれました。



▲ロイヤル・ウィンターフェア表彰式

11月9日(土)〜11月10日(日)  
帰国

あつという間の5日間。帰国の日となってしまうました。日付変更線を越え14時間かけて羽田空港へ戻ってきました。空港にて流れ解散ではありませんでしたが、共に過ごした酪友との別れを惜しみながら、また再開の約束をし、地元へとそれぞれの帰路につきました。

### 最後に

コロナ禍で開催が延期されていたこの視察研修。全国酪農発表大会の発表者の皆様も行ける日を楽しみに待っていたとおっしゃってくださいました。そのような機会に一緒に参加させていただいたことに感謝の気持ちでいっぱいです。業務とはいえ、コロナ禍がようやく明け、久しく浴びていない異国の地の空気や環境の違いはとても刺激的でリフレッシュすることができ、参加者の皆様との会話は新たな視野を得ることができました。

このような行事に参加する機会を与えていただいた全酪連・酪青女・(二社)全国酪農協会の皆様にご場を借りて心より感謝申し上げます。

(総務部 上原直子)



# 全酪アカデミー卒業生 3組目が福岡で 就農開始

酪農就農を志す担い手を育成し、就農に結び付けることを目的とした一般社団法人全酪アカデミー(理事長・熊谷法夫全酪連専務理事)の職員であった佐々木真理子さん、佐々木雄太さんご夫妻は、アカデミーでの研修を修了し、令和6年11月、福岡県宗像市にて経営継承し就農しました。

2人は、令和4年4月に全酪アカデミーに入職し、2年7カ月の研修期間を経て、福岡県宗像市で山田博則・紀子ご夫妻が営んでいた山田牧場を第三者継承により継承し、11月1日より新たに営農を開始しました。

もともと非農家であった2人は、大手飼料メーカーの同期でよきライバル。互いに営業マンとして切磋琢磨しながら、畜産農家を巡回していました。営業で畜産農家とかわるうちに、自分たちの中に『牛飼いたい』という夢が芽生えてきました。

2人は、酪農家を目指し、北関東の県や市などに問い合わせたところ、なかなか良い条件にタイミングが合わず、北海道の市町村にも話を聞きに行きました。そんな折、業界



▲アカデミー入職当時(2022年4月)前列右2名

紙に全酪アカデミー研修生募集の記事を見つけ、迷わず連絡を入れ、令和4年4月から全酪アカデミーに入職して研修をスタートさせました。

アカデミーの研修は、1年目を福岡県の全酪連酪農技術研究所で行います。2年目からは就農予定農家も

しくはその近隣の契約農家で研修を行います。2人は、経営継承を希望するいくつかの酪農家をアカデミー事務局とともに視察訪問し、2年目の研修を九州で行うこととしました。そんな折、福岡県の山田牧場から経営継承希望の話が賛助会員であるふくおか県酪農協を介して届き、山田牧場の経営を継承する協議が開始されました。アカデミー事務局やふくおか県酪協も同席し山田ご夫妻と協議を重ねるうちに、『山田牧場は、2人が求めていた牧場』であることがわかりました。

『お会いして、山田さんご夫妻がとてもいい人と感じました。敷地内の住居も含めて、資金面でとてもいい条件を提示していただいたり。牧場と言うと人里離れた場所をイメー

ジしますが、山田牧場は街まで車で10分ちよつと。とても暮らしやすいところも魅力でした』と真理子さん。雄太さんは、『30頭規模で自給飼料も作られている。2人でまず始めるには、このくらいがちょうどいい規模だと思っていた』と。山田牧場で研修を開始し、経営継承の協議を重ねていくにつれ、『本当に自分たちだけで経営ができるのか不安な気持ちがあわてきましたが、山田さんには継承後のお手伝いも約束していただけで、とても心強く思いました。行政などへの申請書類や名義変更申請、融資の手続きなどの事務手続きなどいくつもありませんでしたが、県酪やアカデミー事務局のサポートで無事こなせました。』と雄太さんは当時の気持ちを振り返っています。





▲ 営農開始日の朝の搾乳



▲ 清掃の行き渡った佐々木牧場

いざ、名義が『佐々木牧場』となった11月を迎え、雄太さんは今後の目標を『今の規模を維持しつつ、確実に自給飼料を作りながら経営を回していくことが、今は一番』、真理子さんは『30頭めいっぱい搾り、乳量を増やして早く軌道に乗せて、借金を1日でも早く返したい(笑)』とそれぞれ語っています。

『アカデミーを知らなければ、途中で諦めていたかも』とも話す真理子さんは、『就農先の農家さんと直接話すことが難しい条件面などの事柄が多い中で、アカデミーが間にあって話を進めてくれました。これは非常にありがたかったです。』と話し、雄太さんも『アカデミーでは、正しい技術や知識が習得できま

すし、就農先も複数の候補先から選

## ●令和7年度研修生募集



一般社団法人 Zenraku Academy

## 全酪アカデミー

(一社) 全酪アカデミーでは、令和7年度の研修生を募集しています。

牧場で働きながら知識や技術を身に付けます。「入学金」や「授業料」などの学費は一切かかりません。現在会社にお勤めの方が退職後も安心して酪農就農を準備できる体制を整えています。

- ▶ 給与 月給 210,000 円～ (夫婦での採用の場合、月給 420,000 円～)
- ▶ 休日 4週4休 (農場研修は月 23 日程度)
- ▶ 借上住宅
- ▶ 通勤手当
- ▶ 有給休暇
- ▶ 社会保険

詳しくは、ホームページでご確認ください。  
▶ <https://z-academy.org/>

YouTube で動画を公開しています。  
▶ [https://youtu.be/Vmy\\_KocOF-g](https://youtu.be/Vmy_KocOF-g)



# 令和6年度製造技術体験発表会・研修会を開催いたしました

酪農部が事務受託する、全国農協乳業協会（会長 大久保克美 東毛酪農業協同組合 代表理事組合長）において、令和6年10月16日～17日にかけて「製造技術体験発表会・研修会」を、7名（事務局含む）の参加を得て開催いたしました。本発表会・研修会については、製造現場のQC活動（業務改善活動）を発表し、工場間での技術、知識の共有による相互研鑽及び、工場視察研修による知識習得を目的に、今回で第44回を迎えます。今回初めての試みとして、生処の連携を深めることを目的に、全国酪農青年女性会議の役員2名をご招待しました。

本年度は、東京都墨田区「第一ホテル兩國」を会場に、7会員による発表がありました。それぞれの企業ごとに、直面する様々な課題に対して改善チームを構成し、改善活動の経過・成果について発表をいただきました。



▲ 佐藤業務担当理事（全酪連 常務理事）からの開会の挨拶

最優秀賞には大山乳業農業協同組合から、「OCR処理による期限日チェックとペーパーレス」と題して、製品製造時の賞味期限表示印字の確認作業を、従来は製造製品のパッケージを切り取り、貼付け、Wチェックのためのサインをもらいに右往左往していたところを、OCR読み取り機を使い、電子媒体でのチェック機能やデジタル承認の仕組みを取り入れた発表に、多くの審査員からの評価を得ました。特に、既存の製品



▲ 最優秀賞：大山乳業農業協同組合「brush up」

を導入した中でも、チーム全体で創意工夫を凝らし独自のバーコード作成や、確認フローを構築したところが、高く評価されました。表彰式の最優秀賞者スピーチにおいては、代表者より「最優秀賞がいた

だけると思っていなくて大変驚きました。チームで日々業務改善に取り組んだ成果だと思うので、今日来ていないメンバーとともに喜びたいと思います」と、製造現場・チームの結束の強さを感じる内容がありました。



▲ 会場特別賞を受賞した、熊本県酪連「デジ活」

また、今回より会場に参加した方に、「一番よかった発表」に一票を投じてもらったところ、熊本県酪連の「検査日報デジタル化の推進」が、一番多くの得票数になり「会場特別

賞」を受賞されました。

他企業の発表についても、昨今の社会的に注目を集める「働き方改革」「ペーパーレス化」等に取り組み内容等が多くありました。様々な現場での話に、会場参加者も真剣に発表に聞き入る姿が多く見受けられ、会場からの質問も多くあがり活発な質疑応答が行われました。

終了後に開催した懇親会では、翌日視察研修を実施する雪印メグミルク(株)野田工場 工場長 渡辺玲児様よりご挨拶を頂戴し、また会の途中では全国酪農青年女性会議の山下副委員長、長友副委員長にも、本日の発表会の感想をいただきました。酪農



▲ 全国酪農青年女性会議の役員からメッセージをいただきました

家から見た今回の発表会は、「酪農家が一生懸命搾った乳を、こんなに大切に製造してもらっていることを知れて、うれしい」の一言につきる。「酪農現場が厳しい中でも、酪農家は一生懸命消費者においしい牛乳を届けるために頑張っている。今日の発表を聞いてさらに頑張ろうと思えた」と熱いメッセージをいただきました。

翌日17日は、雪印メグミルク(株)野田工場の工場見学を実施いたしました。

工場の見学通路からの製造現場の見学や、PRルームでの動画を通じた製造の説明を受けました。見学通



▲ 雪印メグミルク(株)野田工場長から、ご挨拶をいただきました

路では、案内スタッフの方に積極的  
に質問をする姿や、製造管理の状況  
人員等それぞれの立場で真剣に観察  
をする姿が多くみられました。

この研修会においては、普段な  
なか交流の無い他社の製造職員が情  
報交換も目的の一つとなっており、  
今回の研修も懇親会や昼食でテーブ  
ルを共にした参加者同士、闊達に情  
報交換を実施して2日目の終了時に  
は親睦がさらに深まった様に感じま  
した。

来年度の開催は石川県金沢市にお  
いて実施することが、審査委員会  
の中でも決定し、次回の開催に向け準  
備を進めて参ります。

農協プラントにおいて、生産者か  
ら搾られた生乳を無駄にせず、消費  
者に付加価値をもって提供できるよ  
う企業努力を進めており、この改善  
活動も無駄（ロス）を削減すること  
や、消費者の声にこたえるための改  
善を通じて、牛乳乳製品の消費拡大  
に寄与していると実感する2日間  
でした。

来年度以降も、引き続き全国酪農  
青年女性会議とも協力し、生乳一体  
となった取り組みを進めていきたい  
と考えております。

▼ 審査結果

	会員名	チーム名	発表テーマ
最優秀賞	大山乳業農業協同組合	brush up	OCR 処理による期限日チェックとペーパーレス
優秀賞	よつ葉乳業株式会社	宗谷工場 製造課	粉乳充填設備改善への取り組み
	熊本県酪農農業協同組合連合会	デジ活	検査日報デジタル化の推進
優良賞	日本酪農協同株式会社	制御チーム	原料計量システム・保全システム（見える化）
	榛名酪農農業協同組合連合会	牛乳工場 充填係	働きやすい現場づくり
	南日本酪農協同株式会社	防虫対策研究室	自主管理のすすめ「僕らが目指す防虫対策！」
	全国酪農農業協同組合連合会	二戸の牛飼い	回収加塩バターを救え!?

※優秀賞・優良賞は発表順

# 酪農業に対する理解醸成活動報告

酪農業に対する理解醸成活動は、一般消費者に対し、酪農が日本の国土保全、地域経済活性化に果たしている役割や、酪農を取り巻く情勢について、酪農家自らが消費者に説明することで、酪農への理解醸成を促進し、国産牛乳や乳製品消費定着化を図ることを目的に、国の補助事業である生乳生産者需要確保事業を活用して、2013年から継続して全国各地で行っている活動です。

ここ数年、牛乳・乳製品の小売価格の値上げが続いている中、酪農家の現状を消費者に伝え、牛乳・乳製品の購入・消費をアピールし、酪農家を応援していただきと呼び掛けてきましたが「今こそ牛乳の価値を伝えたい」という強い思いで、改めて牛乳の機能性や必要性を伝えようと、今年も活動を実施しています。全国各地から報告が届いていますのでその活動をご紹介します。ご協力いただいている関係者の皆様に深く御礼申し上げます。



## ●理解醸成活動

会場：新宿駅西口広場イベントスペース  
(東京都新宿区)

開催日：9月29日(日)

参加者：全酪連・全国酪青女・関係団体 他



本所



## ●ちとせ消費者まつり2024

会場：北ガス文化ホール(北海道・札幌市)

開催日：9月28日(土)

参加者：北海道酪農青年女性会議

札幌支所

## ●栃木県2カ所の道の駅における酪農業に関する理解醸成活動

会場：道の駅那須高原友愛の森・道の駅ましこ(栃木県芳賀郡益子町)

開催日：9月22日(日)

参加者：栃木県酪農青年女性会議



## ●栃木県酪農フェア2024(主催者：栃木県酪農協会)

会場：栃木県畜産酪農研究センター(栃木県那須塩原市)

開催日：10月26日(土)

参加者：栃木県酪農青年女性会議



東京支所

## ●南箕輪村農産物収穫祭(主催者：長野県上伊那郡南箕輪村)

会場：伊那谷プリンフェス(南箕輪村「大芝高原 味工房前駐車場」)

開催日：10月19日(土)、27日(日)

参加者：長野県酪農青年女性会議



## ●第48回寄居町産業文化祭

(主催者：寄居町畜産振興協会)

会場：賑わい創出交流広場YORIBA

(埼玉県大里郡寄居町)

開催日：10月26日(土)

参加者：埼玉酪農業協同組合



●第45回 石川の農林漁業まつり  
 (主催者:石川県)

会場:石川県産業展示館 4号館  
 (石川県金沢市)  
 開催日:10月19日(土)~20日(日)  
 参加者:石川県酪農農業協同組合 他



●動物愛護フェスティバルin飛騨  
 (主催者:岐阜県獣医師会)

会場:岐阜県飛騨市文化交流センター  
 (岐阜県飛騨市)  
 開催日:9月22日(日)  
 参加者:岐阜県酪農農業協同組合連合会  
 他



●酪農業に関する理解醸成活動  
 (主催者:(一社)三重県畜産協会)

会場:四日市農芸高等学校  
 (三重県四日市市)  
 開催日:10月29日(日)  
 参加者:三重県酪農農業協同組合 他



●愛知県畜産フェスタ(主催者:愛知県・愛知の畜産物消費促進推進協議会)

会場:愛知県畜産総合センター (愛知県岡崎市)  
 開催日:10月12日(日)  
 参加者:愛知県酪農農業協同組合 他



●農協祭り

会場:桜淵公園(愛知県新城市)  
 開催日:10月19日(土)  
 参加者:愛知県酪農青年女性会議 他



●第45回 阿久比町産業まつり(主催者:阿久比町)

会場:阿久比町役場(愛知県知多郡阿久比町)  
 開催日:11月16日(土)~17日(日)  
 参加者:阿久比町酪農組合・愛知県酪農農業協同組合



●みはま酪農出前講座(主催者:美浜町酪農組合)

会場:小学校(愛知県知多郡美浜町)  
 開催日:10月16日(日)  
 参加者:美浜町酪農組合・愛知県酪農農業協同組合 他



●ゆめ花マルシェ 2024  
 (主催者:山口きらら博記念公園  
 活性化協議会)

会場:山口きらら博記念公園  
 (山口県山口市)  
 開催日:10月26日(土)~27日(日)  
 参加者:山口県酪農青年女性会議



●九州ぎゅ〜っと牛乳まつり  
 (主催者:(共催)九州酪農青年  
 女性会議・ふくおか  
 県酪農農業協同組合)

会場:博多駅前広場(福岡県福岡市)  
 開催日:9月28日(土)  
 参加者:九州酪農青年女性会議  
 他



●令和6年度大分県農林水産祭  
 「おおいたみのりフェスタ」  
 (主催者:大分県農林水産  
 祭実行委員会)

会場:別府公園(大分県別府市)  
 開催日:10月19日(土)~20日(日)  
 参加者:大分県酪農青年女性会議・  
 大分県酪農農業協同組合 他

●2024くまもと農業フェア  
 (主催者:JA中央会)

会場:熊本県農業公園カントリー  
 パーク(熊本県合志市)  
 開催日:11月9日(土)~10日(日)  
 参加者:熊本県酪農青年部  
 女性部協議会・  
 らくのうマザーズ 他



# 見て歩紀

No. 378

馬場牧場

北海道夕張郡由仁町

## 学んでたどりついた 放牧酪農

この度ご紹介いたします馬場牧場は札幌市の東、車で1時間程度のところにあります由仁町に位置しています。由仁町はのどかな田園風景が広がり、自然豊かなキャンプ場・道央では珍しいモール温泉など週末のドライブに最適で、筆者も何度も訪れています。馬場牧場が所属するそらち南農業協同組合（山本博行代表理事組合長）は、生乳出荷戸数7戸、出荷乳量は約5,000t（HPより抜粋）となっております。

今回お話しを伺ったのは馬場牧場の4代目経営者である馬場敏さんです。馬場牧場は敏さんの曾祖父様が入植したのが始まりで、当初は札幌市厚別区に牧場がありました。戦後の宅地開発によりお父様の代で由仁町に移転し、草地・牛舎ともに当時のまま敏さんに引き継がれています。現在経産牛34頭、育成牛4頭を敏さんがほお

▲ 馬場敏さん



▲ 放牧地から見た牛舎

一人で管理され、放牧地・採草地合わせて34haに夏季昼夜放牧をおこなっています。

### 酪農って何が面白いの…

敏さんは札幌の普通高校を卒業後、大学では工学部に入学しまし



北海道夕張郡由仁町



た。子供の頃から牧場の手伝いはしていたそうで、お兄様が牧場を継がないとわかり、性格的に合っているからやってみよう、と大学卒業後にご実家に就農されました。ご兄弟の在学中にご両親が牛を減らしていたこともあり、就農時は搾乳牛15頭からスタートしました。経営状況があまりよくなかったため、まずは「牛を増やす」ことに取り組みました。10年ほどかけて経産牛55頭、育成牛40頭の規模になり、その間リーマンショックによる飼料高からデントコーン栽培も開始しており、生乳生産量・自給飼料の増加と副産物収入で経営は少しずつ右肩上がりになっていました。ただ労働力が圧倒的に足りず、たまに従業員を雇うこともありました。牛舎に1日9〜10時間いることが当たり前で、夏場は外仕事が増える夜中にトラクターに乗ることもしばしば。30代半ばにはぎっくり腰を発症してしまうなど、「酪農のことを何もわかっていなかったし、やってみたら



▲ 青草を牛が食む、絵になる景色が広がる

思っていた以上に大変だということも分かった。酪農ってなにが面白いんだろう？って思っていました。」と話される状況でした。近くに酪農仲間がいたことが、当時の敏さんの支えだったそうです。

### 配合ゼロで1,000万円?!

馬場牧場は牛舎に隣接する形で採草地が広がり、放牧の環境は整っています。ご両親の代でも放牧を行っていたこともあるそうですが、

当時は50頭以上の牛にデントコーンの作付けもありながらの放牧で、「牛の出し入れが大変」「仕事が増えるだけ」というイメージがあり、放牧に興味や憧れは持ちつつも踏み切れないでいたそうです。

しかし、2016年に紹介を受け視察に行った放牧酪農家で経産牛25頭・育成牛5頭、配合ゼロ、無施肥無配合、年間1,000万円の利益という衝撃の数字に「雷に打たれた」と言います。放牧草の管理と牛の改良をしっかりとやれば、牛に配合をやらなくても良いと言う牧場主の話に概念が覆されたそう。「放牧しかない」と思い、翌日には業者に電話を掛けたそうです。冬の間に転換に向けた準備を進め、翌年雪解けと同時にファームデザインに取り掛かり、その年の秋には日中放牧を開始しました。

### 草地の観察が日課に

放牧酪農への転換を決めたもの、ご本人曰く放牧に関する知識はほとんどなかったため、同時に放牧や草地を学ぶ勉強会に参加するようになりました。フィールドワークでは実際の放牧農場で土の質や構造について学び、自農場の土壌・草地の状

態にも目を向けるようになったそうです。馬場牧場は舍飼の頃、経済的な理由で草地は無施肥無農薬でしたが、放牧するにあたり結果的に良い影響をもたらしました。「土壌は道内でも地域によって全然違うので、土の状態を知り、それに合う施肥を行うことも大事だと思います。うちの放牧地では、牛の糞を土壌微生物が分解して団粒構造を作ってくれる、お金をかけずに時間をかけてよい土を作ることができました。これからもそれを助けるような管理をしていきたいです。」とのことでした。

放牧は「牛に草を食わせる」ことが主たる目的です。そのために良い土から良い草を作ることがより大事な仕事となります。牧草の種類はチモシーからより再生力の強いオーチャード・ペレニアルライグラスに変更し、毎年追播を繰り返して腐植層の厚い豊かな土壌作りを行っています。採草地においても同様の管理を行い、舍飼いとなる冬季間も放牧草に近い草を与えるため、30〜40cmで3〜4回収穫しているそうです。手間はかかりますが、栄養価が高く冬場の配合飼料の削減にもつながります。「以前は忙しく草を見る余裕が

なかったのですが、放牧を始めて草地に出ない日はほとんどないというほど、よく観察するようにになりました。」取材時は秋の終盤ではありませんでしたが、青々とした草地で牛がおいしそうに草を食べていました。

### 乳量の少ない牛が最高！

舎飼いから放牧に経営形態を移行したことで、牛群の改良も進めています。①小柄（足腰が強い）②乳量が少ないを重視しているそうです。乳量の多い牛は配合に比べてエネルギーが少ない放牧草では身を削って繁殖障害がおこりやすいため、牧草の力だけで無理がかからない牛をそろえていくことで牛が長持ちします。乳量が減り売上げは下がることへの不安もあつたようですが、放牧と同時に経営を学んだことでその不安もなくなりまりました。「売上げを上げれば利益が上がると思っていました、それは違ふのだと分かりました。単価・原価・量・固定費で利益が動くため、餌を半分減らしたら乳量半分になるから利益も半分になると言うわけではなく、影響を与える割合がぜんぜん違ふんですね。

売上げよりも粗利益が一番大事なのだと分かりました」とのこと。経営の仕組みを知り、より乳量の多い牛へのこだわりがなくなったそうです。常識だと思っていたことが中身を知ることによって本質が分かるようになり、最終的な収益の増加につながられるように工夫できるようにになりました。トヨタ式生産方式からヒントを得て、搾乳の方法も馬場牧場に合うように変更して1頭にかかる時間の短縮にも取り組んでいます。

### 誰でも放牧はできる？

敏さんは放牧酪農に出会い、「これしかない！」と思い切つて転換しました。腰痛にきつい作業であつたデントコーンの作付けを止めたことで、作業機械の更新の必要がなくなりました。全面積4回刈りだった採草地は一部兼用地にして放牧で牛に食べてもらうようにしています。頭数が減り、仕事が楽になったうえに以前よりも確実な利益が確保できるようになりました。現在もほぼ一人で経営していますが今後も労働力の心配もなく、草地と牛をきれいに管理して、自分が退く時には個人や



▲牛たちは毎日なだらかな丘を登り放牧地へ出ていく

企業も含め第三者への経営継承ができればよいと考えているそうです。自身の経験を生かして放牧酪農が増えるように、仲間が楽しく酪農ができるように、若い人が酪農に魅力を感じてくれるように、この会報も含めて機会を作つて伝えていきます。

しかし放牧は牛舎に隣接した放牧地と十分な採草地が必要となるため、誰でもできるわけではありません。それではどうするのか。「自分にとつては、この牧場を生かして納得できる経営が放牧でした。それぞれの地域で牧場にとつてベストな経営形態が必ずあるはずです。もし

自分の経営が思い通りにいかないと思つたら、外に出て勉強することが大事であると思います。地域や業界の外に出て学ぶことで、固定観念のない新しい知識が入つてきてくれます。また、酪農家は経営者でもあります。農業技術に限らず経営を学ぶことで、利益の構造が分かり自分の経営の問題点も見えてくるのではないのでしょうか。」

「今年、景色の良い採草地を放牧地に転換して、憧れであつたその場所での放牧が叶いました。」と穏やかな笑顔で話してくださいました。夏場の管理や害獣被害といった放牧の課題もお話いただきましたが、それ以上に「放牧って素晴らしい」こと、そして敏さんがやりがいをもって酪農をされていることが伝わってきた取材となりました。今年から北海道酪農青年女性会議の委員もお引き受けいただき、活動を通して若い世代にも自身の経験や学びの大切さをお話しいただけるとのことですので、こちらも随時発信していきたいと思えます。この度はお忙しいところ快く取材にご協力いただき、ありがとうございます。



# 臨時総会開催される

本会は、11月26日(火)14時より、酪農会館（東京都渋谷区代々木）において臨時総会を開催し、役員補選、他議案について諮りました。

総会は、小前孝夫氏（大山乳業農業協同組合 代表理事組合長）を議長に選出して議事に入り、いずれの議案も賛成多数で原案どおり承認されました。

第1号議案「役員選任の件」においては、役員補選を行い、新たに役員を選任しました。

## 新役員紹介



● 専務理事  
クマガイ ノリオ  
**熊谷 法夫**  
実務精通役員  
常勤／新任

## 2025年農林業センサスにご協力ください

農林業センサスは、5年ごとに、我が国の農林業を営む方や農山村の実態を明らかにする調査です。農林業に関する最も基本的で、重要な統計を作成することを目的としています。

調査結果は、「食料・農業・農村基本計画」及び「森林・林業基本計画」の策定、同計画に基づく施策の企画、立案及び推進のために活用されます。このほか、農林業に関する各種統計調査を効率的に実施するための母集団情報の整備、地方交付税交付金、農業委員会の事務経費に係る交付金等の各種交付金の算定など、活用範囲は多岐に渡っています。

本調査の趣旨をご理解の上、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

詳しくは下記 URL をご確認ください

→ <https://www.maff.go.jp/j/tokei/census/afc/2025/index.html>



農林業の現在を知る大規模調査

### 2025年 農林業センサス

令和7年2月1日現在

農林業センサスマスコットキャラクター「フッラー」

#### あなたの回答が 農業・林業の未来につながる

全国の農業・林業を営むすべての方が対象です。次世代の農林業の発展のために、調査へのご協力をお願いします。

スマートフォンやタブレットからも回答できます。

農林水産省 | 詳しくは、農林業センサス Web サイトをご覧ください。 | リサイクルマーク

酪農部  
発

## 「商品開発研修会」及び「営業交渉研修」の開催について

酪農部が事務受託している、全国農協乳業協会（会長 大久保克美 東毛酪農業協同組合 代表理事組合長）において、令和6年10月23日に都内会議室を会場に「商品開発研修会」を7会員10名の参加を得て開催いたしました。元江崎グリコ株式会社でポッキーの商品開発に携わった、(株)Jスマイルズ太田講師を招聘し、「ロングセラー化と、ブランドマネジメント」をテーマに学んでいきました。

事前課題として、「ロングセラー」と思う製品について「共通点」「相違点」を各自考えてきた内容を、グループで共有しそこから導きだされる「共通点」を掘り下げていきました。グループワークの後には、自社の製品にそれらをあてはめてどのように、ブランディングをしていくか等意見を出し合いました。普段他社の商品開発担当者との情報交換機会が少ない中で、1日の研修を通じて、他社ではどのように製品開発しているのか、開発時の悩みなどを闊達に話し合う姿が見られました。受講者からは、「なぜヒットしたかの経緯を知ることによって新たな視点を発見することができた」や、「改めて自身や組織の今後を考えさせられた。また、製品

開発チームとしてモチベーションを上げる良いきっかけにもなった」等の声が聞かれました。

また、営業職の方を対象とした「営業交渉研修」を、9会員13名の参加を得て開催いたしました。日本ラーニングシステムより講師を招聘し、交渉をする上での3要素(発想・スキル・ストーリー)について学びました。「発想」では、商談前の事前準備として筋道を立てて話す方法や、ポジティブな発想を日ごろ心がけることにより、不利な状況に置かれても気持ちを立て直せる潜在意識の話がありました。また、「キル・ストーリー」においては、どのように相手にこちらの条件をのんでもらえるかの論法の解説が行われました。最後に、受講者によるロールプレイングを実施しました。受講者からは、「ロールプレイングで、バイヤー役をした際に相手がどのような考えなのかを理解できたのが大きな収穫だった。今後交渉に行く前に、相手に与える印象等も考慮したいと思った」や、「今まで商談のロールプレイングをしたことがなかったので、今後機会を見て実施していきたい」等の声が聞かれました。(Y.A)



▲ 商品開発研修会受講風景



▲ 商品開発研修会グループワークの風景



▲ 営業交渉研修受講風景

酪農部  
発

## 「販売担当者情報交換会」の開催について

令和6年11月7日に新大阪ワシントンホテルプラザにて、「販売担当者情報交換会」を15会員36名(事務局講師含む)の参加を得て開催いたしました。本年度は「物流2024年問題」をはじめとする「物流」をテーマに、クレートやパレットの管理、「物流2024年問題」に対応するための一般製品・学校給食用牛乳等納入課題について情報交換を行いました。

冒頭に、(一社)Jミルクより「学乳の課題解決に向けた取り組み」について情報提供をいただき、その後(一社)日本乳業協会より「牛乳等の食品ロス削減に向けた商習慣見直しについて」と、(株)明治より「(株)明治における、物流取り組み事例紹介」と題して3つの情報提供をいただきました。

その後、事前アンケートをもとに、各テーマについての情報交換を行いました。一般製品の納入等については、量販店等ならの発注から納品までのリードタイムを、即日に対応していたところから前日発注や2日前発注等に変えることで、車両確保製

造等の計画的な運用を行う取り組みや、量販への取引内容変更時の交渉等についても情報交換がなされました。

また、学校給食用牛乳についても、納品時の受け取り時間の制約や距離や物量の関係で、毎日の納品が難しい地域への対応等、すでに解消ができた地域と課題がある地域との情報交換がなされました。

終了後には懇親会にて、更なる情報交換が行われている様子があり、会員の相互連携に大きく寄与できたと実感いたしました。(Y.A)



◀◀ 情報交換会 風景

札幌  
支所発元気な酪農女性が集結！  
「とがち酪農女性プチサミット」出展

11月1日(金)帯広市において「とがち酪農女性プチサミット」(主催：とがち酪農女性プチサミット実行委員会・共催：十勝農業協同組合連合会)が開催され、十勝管内の酪農女性を中心に道内外よりおよそ180名の参加がありました。当催しは2017年から3年間北海道で開催された「酪農女性サミット」の地域版として、各地域の酪農女性がそれぞれ実行委員となり開催しています。本会は協賛という形で当サミットを応援するとともに女性職員を中心に毎年参加しパワーをいただいておりますが、今年は出展企業として参加者の皆さんに哺育飼料を中心とした製品と、酪

農青年女性会議活動の紹介を行いました。

別海町の牧場がご実家であり、“ともぐい”で直木賞を受賞された作家の河崎秋子氏による基調講演に始まり、パネルディスカッションでは十勝管内の酪農女性3名がそれぞれのモチベーションアップの方法を紹介しました。会場には協賛企業からの提供品を中心にスイーツや飲み物が用意され、参加者は肩の力を抜いて「等身大」の酪農女性に共感し、和やかな雰囲気を楽しまれていました。本会ブースにも多数の参加者が訪れ、パンフレットを手に本会製品の説明に耳を傾けていました。(T.H)



札幌  
支所発

## 北海道酪農青年女性会議 「若い世代に持続可能な酪農を残すのが自分たちの責任」 高校生との交流会

北海道酪農青年女性会議（中山斉委員長）は、酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校の生徒と一緒に「酪農を学ぶ高校生と生産者による交流会」を開催しました。3回目となる今年も機農コース2年生を対象に、生徒26名と酪農家10名が参加しました。

昨年に続き当会議委員の中野大樹氏（鹿追町(株)中野牧場 代表取締役）に基調講演をいただきました。自身が経営者として大切にしている牧場の理念や従業員とのかかわりについて説明し、「酪農はそれに携わるたくさんの方の支えで成り立っている。どんな仕事でも本質は同じ。自分がどうあるべきかを考えながら、人との繋がりを大切に自分の長所を伸ばしていこう。今はたくさん情報を集めることができるが、知ることよりも大切なのはやってみること。やって失敗して、を繰り返して正解を見つけてほしい。仕事だけでは人生もったいない、なんでもやってみよう！」と生徒にエールを送りました。

続いて行った交流会では生産者1名と生徒少数がグループになり、自由に意見交換を行いました。「最

初は酪農も牛も好きではなかったので、やる気が出なかった。でも失敗を繰り返して違う方法を試していくうちにだんだん疾病が減ったり繁殖が回るようになったり・・・そうすると本当に面白い！この奥の深さが酪農の魅力。僕たちが苦しいと言っていたら次の世代に渡せない。どうしたら持続可能になるかを考えてやるのも僕たちの責任だ。」一番若い生産者はこのように語り掛け、生徒は真剣に聞き入っていました。

今年初の試みとして、生徒には事前に今年の全国酪農青年女性酪農発表大会の資料と動画で学びイメージを膨らませてもらいました。12名の発表者の中で、「1番魅力的だと思った経営」、そして「1番お金が儲かると思った経営」を聞いた事前アンケートでは、それぞれの価値観や尺度でしっかりと理由とともに答えが書かれており、日々真剣に酪農と向き合っていることが伺えました。厳しい酪農情勢と言われる中でも、たくさんの素晴らしい酪農家が若い世代を待っていることが伝われば嬉しく思います。

(T.H)



名古屋  
支所発中部酪農青年女性会議  
「令和6年度全体研修会」開催

中部酪農青年女性会議（西尾直樹委員長）は、令和6年度全体研修会を11月6日(水)に開催しました。

今回は全酪飼料(株)東海工場の視察研修を行いました。配合飼料工場内を初めてみる方々ばかりだったので、とても有意義な視察研修となりました。

今回の視察研修参加者は11名で、碧南市にある「農家れすとらん 葉菜の舎」で昼食後、東海工場会議室で工場のレクチャーを受け、その後工場施設を

見学させていただきました。

普段利用する配合飼料がどのような工程で製造され、原料や製品がどのように管理されているかを知ることが出来、大変有意義な研修となりました。

今後も様々な研修会を企画し、地域酪農家の皆さんにとって有意義で楽しい研修会を開催したいと思います。  
(S.M)



▲ 集合写真



▲ レクチャー風景



▲ 工場施設視察

福岡支所発

# 5年ぶり、「第8回九州連合ホルスタイン共進会」が盛会裡に開催！

11月3日(日)、九州・沖縄地区酪農団体協議会（中村隆馬会長）の主催により、熊本県家畜市場（菊池郡大津町）において、「第8回九州連合ホルスタイン共進会（農林水産祭参加行事）」が盛大に開催されました。

本共進会は、九州・沖縄各県の乳牛改良促進及び酪農経営の安定と向上を図る目的で5年ごとに開催されており、来年開催される第16回全日本ホルスタイン共進会の前哨戦の位置付けとして行われました。

これまで、大会前日には九州・沖縄地区酪農団体協議会役員、来賓の方々、各県の出品者や組合職員等の関係者が集い前夜祭を行い九州・沖縄酪農の連帯と親睦を深めますが、今回は台風21号から変わった低気圧の影響による荒天が予想されたことから、急遽、中止せざるを得ませんでした。また沖縄より出品が予定されていましたが、フェリーの欠航により残念ながら参加が叶いませんでした。

しかし、共進会当日は穏やかな好天に恵まれ、絶

好の共進会日和となりました。開会式では、九州・沖縄地区酪農団体協議会の中村会長より「本共進会が九州・沖縄の乳牛改良の発展に寄与するとともに、来年の全共に向け九州・沖縄の酪農生産者が団結し、参加者同士が交流を深める場となることができれば幸いです。」と式辞を述べられました。続いて、ご臨席いただいた坂本哲志代議士（熊本）、西銘恒三郎代議士（沖縄）をはじめ、九州農政局、熊本県農林水産部より祝辞を賜りました。

本共進会の審査員は北海道ホルスタイン農業協同組合、審査部部長である稲山智明氏が務め、総数125頭が12部（未經産牛5部、経産牛7部）に分かれ、厳正な審査が行われました。

結果は別表をご参照ください。

また、共進会運営は、九州・沖縄地区酪農団体協議会を構成する各県酪農団体より役職員、事務局である福岡支所職員が多数参加、スムーズにショウを進行することができました。感謝申し上げます。（T.S）

## ●グランドチャンピオン（農林水産大臣賞）

出品番号	本牛名号	MSF DM プロント ダーミア ET		出品者	松永 慎也	
1207	登録番号（個体識別番号）	1565675337	生年月日	H30.10.26	産地（出品者住所）	自家産（福岡県）
	出品牛の父	バルビツソン ドアマン E		出品牛の母	バージニア プロント ダーミヤ	

## ●リザーブチャンピオン（農林水産省 畜産局長賞）

出品番号	本牛名号	ダビドソン レディ ジャガー		出品者	㈱有田牧場	
810	登録番号（個体識別番号）	1593912831	生年月日	R4.1.26	産地（出品者住所）	北海道（熊本県）
	出品牛の父	ピーク ジャガー ET		出品牛の母	ダビドソン ジエダイ レディ	



◀ 中村隆馬会長の式辞



▲ 受賞記念撮影



◀ 坂本哲志代議士の祝辞



▲ 審査風景 稲山智明審査部長（北海道ホルスタイン農業協同組合）



▲ グランドチャンピオン出品者 松永慎也さん(福岡県)

# (一社)全国酪農協会の 酪農共済制度のご紹介

第2回

酪農医療共済  
〈ハイ・メディカル SUPER〉

第2回目は、病気やケガのリスクに備える「酪農医療共済」についてご紹介いたします。酪農家の皆様は、一般の方と比べてケガのリスクがかなり高いので、それを反映した補償内容となっているのが大きな特長です。

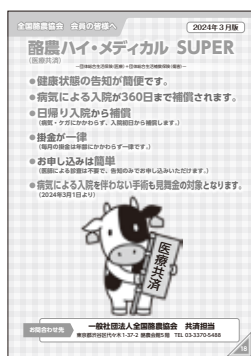
## 酪農医療共済の5つの特徴

- 1 長い入院に対しても補償があります。  
1入院に対して、病気は、360日、ケガはなんと1,095日。
- 2 短い日帰り入院でも給付金が受取れます。
- 3 掛金が一律。年齢によって掛金が上がらないので、安心して継続できます。
- 4 「健康状態の告知」が簡便です。質問は2つだけです。
- 5 入院を伴わない病気の手術も見舞金の対象となりました。

入院・手術の補償以外にも

- ・先進医療を受けられた時、実額補償（最大1,000万円）
- ・ケガによる後遺障害、8～200万円（基本コースの場合）
- ・死亡した場合、10万円限度の葬祭費用（基本コースの場合）
- ・個人賠償責任を補償（最大200万円）
- ・ケガによる通院の補償、1日につき3,000円（基本コースの場合）

などの豊富な補償が得られます。



パンフレットは  
QRコードからご覧いただけます。



➔ [http://www.rakunou.org/kyosai/pdf/highmed\\_super.pdf](http://www.rakunou.org/kyosai/pdf/highmed_super.pdf)

酪農共済制度は、他の保険・共済とは異なり、酪農家・酪農協職員等向の制度であり、一般の方は加入することはできません。

酪農共済制度に関する問い合わせ、各制度のパンフレットご希望の際は、下記までお問い合わせください。

一般社団法人 全国酪農協会

電話 03 (3370) 5488

HP [www.rakunou.org/](http://www.rakunou.org/)





一般社団法人 Zenraku Academy  
全酪アカデミー

令和6年9月～11月

活動報告

第38回理事会

11/15

【第1号議案】事務局の所要な職員（事務局員）の任免について

【第2号議案】特別会員の入会承認について

【第3号議案】臨時社員総会の開催（理事の辞任に伴う後任理事の選任）について

令和6年度（第4事業年度）臨時社員総会

11/28

【第1号議案】理事の辞任に伴う後任理事の選任について

第39回理事会

【第1号議案】代表理事の選任について

新役員体制



理事長

クマガイ ノリオ  
熊谷 法夫

全国酪農業協同組合連合会  
専務理事

11月 特別会員入会

一般財団法人  
おからく教育振興会

（一社）全酪アカデミーも参加しています



新・農業人フェア

主催：株式会社農協観光 運営：株式会社マイナビ 協賛：全国酪農業協同組合連合会 他

例年農林水産省補助事業として開催されている「新・農業人フェア」は、就農希望者と就農希望者を募集する自治体や農業法人等が一堂に会し、就農相談やセミナー、説明会を行う就農相談会です。

「農業を知りたい」「働きたい」「かかわってみたい」という気持ちをもつ全ての方を対象とした、入場無料、入退場も自由な、国内最大級の就農イベントです。

イベントの詳細はこちら



開催日	種別	会場
7月20日(土) (終了しました)	農業就職・転職 LIVE	東銀座歌舞伎座タワー マイナビ PLACE (東京都中央区銀座)
8月31日(土) (終了しました)	農業 EXPO	東京国際フォーラム (東京都千代田区丸の内)
10月27日(日) (終了しました)	農業 EXPO・LIVE	グランキューブ大阪 (大阪府大阪市北区中之島)
12月8日(日) (終了しました)	農業 EXPO	東京ビッグサイト (東京都江東区有明)
<b>2月1日(土)</b>	<b>農業就農・転職 LIVE</b>	<b>東京交通会館 (東京都千代田区有楽町)</b>



# 第7回 らくのうマルシェ

## 開催のお知らせ

令和3年11月に第1回を開催した「らくのうマルシェ」も、第7回を迎えました。今回は、令和7年1月25日(土)に開催いたします。

毎回多くの方に来場いただき、全国の牛乳・乳製品をお楽しみいただいております。

是非お立ち寄りください！

**日程** 令和7年1月25日(土) 10時～16時30分

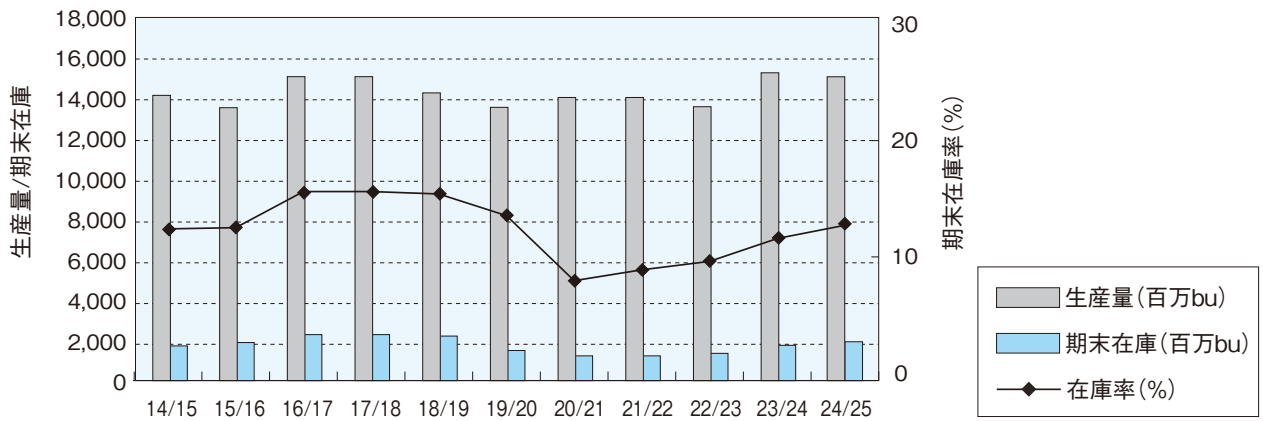
**会場** 酪農会館 1階エントランス  
東京都渋谷区代々木1-37-2



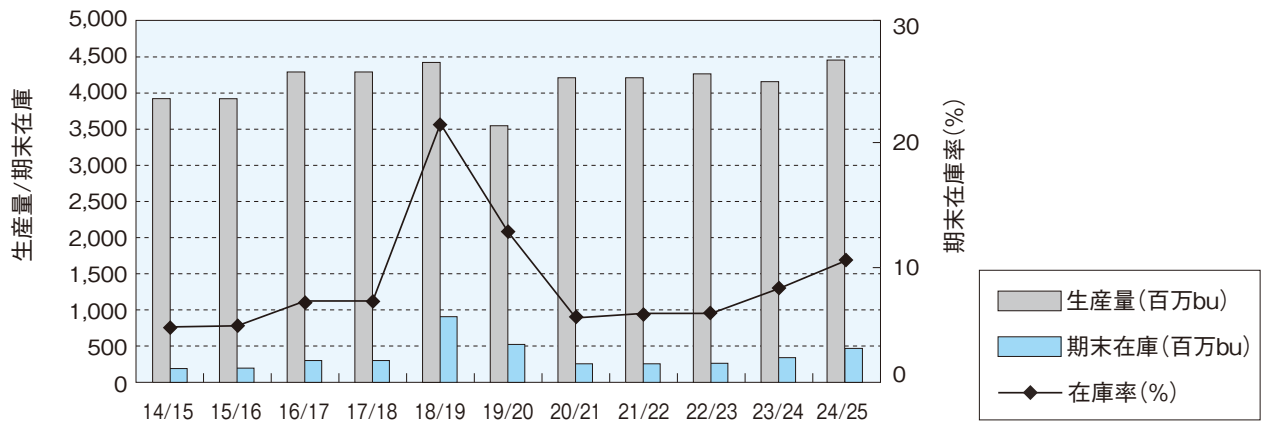


		23/24年産	24/25年産
11月8日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	作付面積(百万エーカー)	94.6	90.7
	単 収(ブッシェル/エーカー)	177.3	183.1
	生 産 量(ブッシェル)	153億4,100万	151億4,300万
	需 要 量(ブッシェル)	149億6,900万	149億9,000万
	期末在庫(ブッシェル)	17億6,000万	19億3,800万
	在 庫 率	11.76%	12.93%
	トウモロコシ 相場動向	シカゴ定期は米国の豊作が確定していることや、南米での適切な降雨もあり値を下げてもおかしくない状況だったが、直近では期末在庫の減少や米国の利下げ、株高等の影響を受け値を上げて推移している。	
大豆粕相場動向	シカゴ定期は米国・南米の豊作を背景に弱含んで推移しているものの、中国産大豆粕については中国国内需要の増加から価格が上がっており、輸入価格の高騰に注意が必要である。		
糟糖類	【一般フスマ】 夏場の猛暑による引き取り数量の減少から、ふすま在庫は若干重めとなっている。12月以降は適正レベルに戻る見込み。一方で未粉は、水産飼料需要が強く、タイトな状況が続いている。		
	【グルテンフィード】 全国的にスターチメーカーの稼働が落ち込む時期のため、現在国産玉が逼迫している状況。輸入玉(中国産)を手当てしているため、受渡は問題無い見込となっている。		
海上運賃	原油価格は安定しているが、米国の農産物輸出が最高水準となっており、その影響から直近の海運市況は堅調に推移している。		

### 米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



### 米国産大豆生産量と期末在庫の推移





# 輸入粗飼料の情勢 令和6年11月

北米コンテナ船情勢	北米西海岸航路は乗継航路を含めて主要な本船スケジュールの乱れが続いています。シンガポールや釜山といったアジア地域の中継地では、輸送需要の高まりを受けて、慢性的な遅延が発生しています。米国の大統領選挙が終了したことに加え、年末商戦に向けた貨物の増加により港湾の混雑や労働者不足による作業効率の低下も懸念されています。カナダでは西岸港湾労組 (ILWU Local 514) とプリティッシュコロンビア海事雇用協会 (BC Maritime Employers Association) の労使交渉が難航しており、争議行為としてバンクーバー港にてストライキが開始されました。現時点でカナダ政府の対応やストライキによる影響は不透明ですが、貨物の引き受け停止や荷役作業の中断も予想されることから、港内にコンテナが滞留し、遅延が発生する可能性もあるため動向を注視する必要があります。
ビートパルプ	【米国産】 24-25年産ビートは各産地で作業が概ね終了しています。主産地のミシガン州では温暖な気候が続いたことで品質劣化の懸念がありましたが、現在、気温も低下しているため、保管状況は良好となっています。生産量については、砂糖生産の技術も向上していることもあり、前年よりも減少すると予想されています。
アルファルファ	<p>【ワシントン州】 主産地であるワシントン州コロンビアベースンでは、大半の圃場で24年産の収穫作業が終了しています。24年産は春先の生育に適した冷涼な気候や好天に恵まれたこともあり、1番刈は色目が良好で成分が高い上級品が多く収穫されました。2～4番刈については、収穫の一部で北西部近辺の山火事による煙の影響を受けましたが、全体を通して、例年以上の良品が多く収穫されています。輸出向け需要の停滞により、産地では在庫過剰となっており、産地相場は低迷していますが、他農作物も同様の状況から、転作も進んでおらず、現時点においては25年産の作付面積に大きな増減はなく24年産並になると予想されています。</p> <div data-bbox="1034 510 1449 622" data-label="Image"> </div> <p>▲ 24年産ワシントン産アルファルファ 10月下旬撮影 左: 3番刈 中級品 右: 4番刈 下級品</p> <p>【オレゴン州】 主産地であるオレゴン州クラマスフォールズでは収穫作業の進捗が早く、9月末より日中の気温も上昇したことから生育が加速し、多くの圃場で4番刈まで進み24年産の生産が終了しました。収穫された4番刈は好天に恵まれたこともあり、良品が多く発生しています。同州クリスマスバレーでは3番刈で24年産の収穫作業を終了しています。2番刈では山火事による煙の影響で圃場での乾燥に時間がかかったことから過乾燥な品質のものや、色褪せが多い品質も発生しましたが、3番刈では山火事の影響も無くなり、良品の発生が中心となっています。産地相場については引き続き、米国酪農家は近隣州も含めて成分値が高い品質を買付していますが、荷動きは低調に推移しています。</p> <p>【カリフォルニア州】 カリフォルニア州南部インペリアルバレーではDIP (休耕地政策) に参加していない圃場で収穫作業が続いています。米国内需に加え、中国をはじめとする輸出向け需要も依然として低迷しています。灌漑局の発表によると、10月15日時点でのアルファルファの作付面積は139,302エーカー (前年同期は132,315エーカー) で前年同期比105%と増加しています。</p>
チモシー	<p>【米国産】 主産地であるワシントン州コロンビアベースンおよびエレンズバーグでは24年産の収穫作業が終了しています。1番刈は冷涼な気候の中、生育が進んだこともあり、上級品の発生が中心で中～低級品の発生は限定的となりました。2番刈は降雨や山火事の煙の影響で、上級品の発生は限定的となっています。他草種と比較し、馬糧向けや小売店 (ペット) 向けといった相対的に換金性が高い作物であることから25年産の作付面積は増加すると予想されています。</p> <p>【カナダ産】 主産地であるアルバータ州南部レスブリッジ地区では、2番刈の収穫作業が終盤を迎えています。冬に近づきにつれ日照不足や朝夜の寒暖差で不安定な気候が続いているため、一部の収穫された2番刈は輸出向けに適さない品質となる見通しです。24年産の作付面積は相場低迷により減少しましたが、トウモロコシや菜種といった他農作物の相場も軟化しているため、25年産の作付面積は大きく変わらないと予想されています。同州中部のクレモナ地区では、24年産の収穫作業が終了しています。収穫までに乾燥した日が多かったものの生育期間中の降雨や高湿度な気候もあったことから、収穫された品質は中級品が中心となっています。今後、降雪の時期になることからカナダ国内の多くの酪農家は市場動向を注視し、冬季備蓄用に在庫の確保を進めています。</p>
スーダングラス	<p>主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、24年産の収穫作業が終了しています。24年産は産地相場低迷による生産意欲減退の影響で、作付面積は大幅な減少となりました。23年産の在庫に加え、未だに22年産の旧穀在庫を抱えている輸出業者もいるため作付面積の減少による供給力に懸念はありませんが、今後の相場次第では今期の生産量と繰り越し在庫より需要が上回ることも考えられるため注視が必要です。灌漑局の発表によると、10月15日時点の作付面積は3,947エーカー (前年同期は4,150エーカー) となっており、前年同期比95%となっています。</p> <div data-bbox="1034 1276 1449 1467" data-label="Figure"> <p>インペリアルバレー スーダングラス作付面積推移 (単位:エーカー)</p> </div>
クレイングラス	<p><b>クレインは全酪連の登録商標です。</b></p> <p>主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、大半の圃場で24年産の収穫作業が終了しています。一部の圃場ではDIPの期間終了後に水入れを行っています。株の回復を助ける目的となっており収穫はされない見通しです。25年産でも継続してDIPが実施される見込みのため、夏場の生産は減少すると予想されています。灌漑局の発表によると、10月15日時点の作付面積は22,624エーカー (前年同期22,061エーカー) となっており、前年同期比103%と増加しています。</p>
バミューダ	主産地であるカリフォルニア州インペリアルバレーでは7割近くの圃場がDIPに参加しましたが、参加しなかった圃場では5番刈の収穫作業が開始されています。種子相場が堅調に推移していることからストローの生産も多く、安価な繊維源として需要も高まっています。灌漑局の発表によると、10月15日時点の作付面積は78,842エーカー (前年同期:70,167エーカー)、前年比112%と堅調に推移しています。
オーツハイ・ウィートストロー	<p>豪州では干ばつによる降雨不足が懸念されていましたが、夏季の降雨状況は地域により様々となりました。西豪州では7月、8月を通して昨年を超える降雨に恵まれたものの、東豪州や南豪州では夏季の降水量が昨年を大きく下回りました。9月末～10月からは各地で収穫作業が始まりましたが、降雨の影響で雨当たり品が発生した地域も出ています。日本向けの需要はスケジュール乱れによる入船過多や自給飼料の使用で低調に推移しています。</p> <p>【西豪州産】 概ね収穫作業が終了しています。10月の収穫作業中に降雨被害が発生し、一部は輸出向けに適さない品質となりました。降雨の影響により上級品の発生は限定的で、中～低級品が中心となる見通しです。収量については、生育期間中の降雨により、多くの地域で平年並～平年以上の見込みとなっています。ウィートストローについては現在収穫作業が開始されています。</p> <p>【南豪州産】 概ね収穫作業が終了しており、多くの地域で降雨被害が発生しています。南豪州では豪州国内からの需要も旺盛のため、降雨被害の品質は豪州国内に販売される見通しとなっています。また、生育期間中の降雨不足により、収量は例年の7割程度になると予想されています。</p> <p>【東豪州産】 収穫作業は終盤戦を迎えており、生育期間中の乾燥した気候が続いたことで収量は平年以下の見込みとなっています。南豪州で発生した降雨が東豪州にも生じており、一部では降雨被害が発生しています。</p>



# 乳牛産地情報

令和6年12月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765  
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232  
 根室駐在員事務所 TEL 01537-6-1877  
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051  
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▲……やや強含み →……横這い ▼……やや弱含み ▼……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	25~35	▲	札幌管内の11月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で106.0%、累計で99.4%、苫小牧管内月計で101.6%、累計で98.2%の実績となっております。12月の初妊牛動向といたしまして、2月~3月中旬分娩が中心となります。春分娩も出回り始め、道内外で需要が増してくるため、価格は強含みで推移するものと見込まれます。資源状況については、雌雄選別腹、F1腹ともに潤沢にあります。また、初妊牛の引き合いに応じて、経産牛の引き合いも強くなると見込まれます。高能力な初妊牛の販売が多い地域でもありますので、能力情報を含め、府県支所を通じて紹介いたしますので、よろしくお願いたします。
	初妊牛	45~55	▲	
	経産牛	40~50	▲	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	25~35	▲	根釧管内の11月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で103.0%、累計で100.9%、中標津管内月計で102.4%、累計で101.6%の実績となっております。12月の初妊牛動向といたしまして、2月~3月中旬の分娩中心となります。貴重な春分娩にもかかるため、庭先購入価格はやや強含みになると見込まれます。腹別では、雌雄選別腹の価格は底堅く推移し、F1腹と和牛受精卵腹については種雄牛による価格差はあるものの、全体としてはやや強含みで推移するものと思われま。育成牛の価格は強含みで推移し、経産牛については即戦力となる牛は引き合いが強くなると見込まれます。
	初妊牛	45~55	▲	
	経産牛	40~50	▲	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	25~35	▲	帯広管内の11月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で103.2%、累計で100.9%の実績となっております。12月の初妊牛動向といたしまして、2月~3月中旬分娩が中心となります。春分娩が出回り始める時期となり、都府県からの購買も多い地区であることから、引き合いはさらに強くなり、相場はやや強含みで推移するものと見込まれます。腹別の資源状況については雌雄選別腹、F1腹ともに潤沢にある状況です。価格については、雌雄選別腹が強含みに推移とF1腹価格との差が出ている状況です。また、経産牛については、即戦力は高値で推移し強含みと予想されます。育成牛については、来年夏授精に期待できる育成牛は、強含みで推移するものと見込まれます。
	初妊牛	48~58	▲	
	経産牛	40~50	▲	
道北管内	育成牛(10-12月令)	25~35	▲	道北管内の11月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で98.1%、累計で98.3%、北見管内月計で103.1%、累計で102.0%の実績となっております。12月の初妊牛動向といたしまして、2月下旬~3月中旬分娩が中心となります。道内の需要が高まり、引き合いが強くなっていることから、生体取引の値動きは強含みに推移すると見込まれます。出回りの腹別の資源状況については、雌雄選別腹、F1腹ともに潤沢にあります。経産牛については、道内からは即戦力を求める動きがあり、分娩の近い経産牛の価格は強含みで推移するものと見込まれます。
	初妊牛	47~57	▲	
	経産牛	30~35	▲	
道内総括	育成牛(10-12月令)	25~35	▲	道内の11月中旬までの生乳生産量前年比は102.3%、累計で100.6%の実績となっております。12月の初妊牛動向といたしまして、2月下旬~3月中旬分娩が中心となります。春分娩も出回り始めることから道内外での導入意欲が高まっており、強含みで推移するものと見込まれます。腹別の資源状況については雌雄選別腹、F1腹ともに潤沢にある状況です。価格については、雌雄選別腹の価格は強含みに推移し、F1腹と和牛受精卵腹と価格差が出ている状況です。各地域の相場も徐々に上がってきており、春分娩が中心となってくる年明けからは、更に強含みで推移すると見込まれます。このような状況の為、導入計画がございましたら、早めのご注文をよろしくお願いたします。弊会社としては、相場動向・資源動向に注視しながら、庭先購買を中心にご希望に合った搾乳牛を供給してまいります。
	初妊牛	47~57	▲	
	経産牛	40~50	▲	

## 今月の表紙

今月の表紙は「第14回酪農いきいきフォトコンテスト」に応募いただいた作品「イケメンの搾乳風景」(長崎県 松谷茜氏 撮影)です。



## 編集後記

- 今年も残すところあとわずか。全酪連会報も今年最終号となりました。本年もご愛読いただきました皆様、取材・寄稿等、発行にあたり多大なるご協力をいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。来る年が、皆様にとって良い年となるようお祈り申し上げます。
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。  
shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

令和6年12月10日発行(毎月1回10日発行)  
**全酪連会報** 12月号 No.711

●編集・発行人 津田知亮  
 ●発行 全国酪農協同組合連合会  
 〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館  
 TEL 03-5931-8003 <https://www.zenrakuren.or.jp/>

# 全酪連会報 総目次 (2024.1～12月号)

1月号

新年のご挨拶 / 全国酪農業協同組合連合会 代表理事会長 隈部洋 ..... 2  
農林水産省 畜産局長 渡邊洋一氏 ..... 4  
酪農とのかけはし / 南日本酪農協同株式会社 酪農購買部長 早崎之公さん ..... 6  
令和5年度 全酪連会員職員研修会 前編 ..... 8  
酪農業に対する理解醸成活動報告 2 ..... 11  
日本酪農見て歩紀 / 高部牧場 愛知県豊橋市 ..... 13  
酪農トピックス / 11月3日(金・祝)豊洲公園で開催された「土日ミルクフェス」に全酪連ブースを出展しました(酪農部)ほか ..... 16  
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和5年12月) ..... 21  
今月の表紙 / 並んで はいチーズ ..... 23  
今月の子どもギャラリー / 認定こども園北陽幼稚園・第2北陽保育園 4歳(北海道) 池崎隼人さん ..... 24

2月号

若手後継者の本音 / 遠藤洗介さん ..... 2  
品質保証室だより / 2023年(1～12月)食品事故情報 ..... 4  
令和5年度 全酪連会員職員研修会 後編 ..... 7  
全国酪農青年女性会議 酪農業に対する理解醸成活動 大阪で開催 ..... 10  
日本酪農見て歩紀 / 向牧場 徳島県藍住町 ..... 12  
酪農トピックス / 全国農協乳業協会「令和5年度経営者研修会・意見交換会」の開催について(酪農部)ほか ..... 14  
酪政連活動報告 ..... 15  
令和6年各地域酪農青年女性会議酪農発表大会 開催のご案内 ..... 16  
広告 ..... 17  
令和6年能登半島地震の災害に係る義援金の受付について ..... 16  
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和6年1月) ..... 18  
人事異動 ..... 20  
今月の表紙 / ぼくもウシちゃんになっちゃった! ..... 21  
今月の子どもギャラリー / 聖マリア幼稚園 5歳(関甲信) 興野瑞季さん ..... 22

3月号

酪農とのかけはし / みやぎの酪農農業協同組合 哺育育成センター 所長 佐藤克憲さん ..... 2  
企画管理部だより / 令和5年度 決算に向けて ..... 4  
令和4年度 会員概況調査より ..... 7  
日本酪農見て歩紀 / 西田義博牧場 鹿児島県肝属郡東串良町 ..... 11  
酪農トピックス / 「知多牛系統飼料(全酪連)枝肉研究会」開催(名古屋)ほか ..... 14  
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和6年2月) ..... 18  
作品募集のお知らせ ..... 20  
第51回 全国酪農青年女性酪農発表大会 開催のご案内 ..... 21  
広告 ..... 22  
今月の表紙 / お風呂上がりの一杯は最高でちゅ ..... 23  
今月の子どもギャラリー / 城山保育園 5歳(九州) 大嶋万葉さん ..... 24

4月号

若手後継者の本音 / 鷲岡輝さん ..... 2  
令和5年度 全酪連役員・監事・職員研修会 ..... 5  
日本酪農見て歩紀 / 北アルプス牧場 長野県安曇野市 ..... 8  
酪農トピックス / 「第51回関東甲信越酪農青年女性会議 酪農発表大会」開催 関甲信代表は、外之内加奈さん、野口旭洋さん(東京)ほか ..... 11  
広告 ..... 16  
人事異動 ..... 17  
全酪連2024年のニューフェイスが集結! ..... 17  
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和6年3月) ..... 18  
作品募集のお知らせ ..... 20  
第51回 全国酪農青年女性酪農発表大会 開催のご案内 ..... 21  
酪政連活動報告 ..... 22  
今月の表紙 / 牛と桜 ..... 23  
今月の子どもギャラリー / 品川区立伊藤小学校 1年(西日本) 大塚若菜さん ..... 24

5月号

酪農とのかけはし / 株式会社 代表取締役社長 松田悦二さん ..... 2  
第十三次中期事業計画 案 ..... 5  
酪農部だより / アイ・ミルク北陸 ..... 8  
第6回 らくのうマルシェ開催のお知らせ ..... 11  
日本酪農見て歩紀 / 株式会社ニオニオンデーリィ 福島県双葉郡浪江町 ..... 12  
酪農トピックス / 新規就農が共通項、期待の2名が全国へ! ~第49回北海道酪農経営発表大会開催~(札幌)ほか ..... 15  
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和6年4月) ..... 18  
作品募集のお知らせ ..... 20  
第51回 全国酪農青年女性酪農発表大会 開催のご案内 ..... 21  
第51回 全国酪農青年女性酪農発表大会特別講演を開催 ..... 22  
父の日に牛乳を贈ろう! ..... 22  
今月の表紙 / ジジ手放していいよ! ..... 23  
今月の子どもギャラリー / 城山保育園 5歳(九州) 西村壮平さん ..... 24

6月号

若手後継者の本音 / 川久保拓哉さん ..... 2  
第51回 全国酪農青年女性酪農発表大会 発表者決定! ..... 5  
日本酪農見て歩紀 / ファーストランド高橋牧場 北海道川上郡標茶町 ..... 8  
酪農トピックス / お役に立ちます、全酪連! 「酪農アドバイザースキルアップ研修」(札幌)ほか ..... 12  
采えある春の叙勲 ..... 17  
知って得する農業者年金のご紹介 ..... 18  
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和6年5月) ..... 20  
父の日に牛乳を贈ろう! ..... 22  
今月の表紙 / ババ、お手伝いに 来た YO ♪ ..... 23  
作品募集のお知らせ ..... 24  
第51回 全国酪農青年女性酪農発表大会 開催のご案内 ..... 25  
今月の子どもギャラリー / 尚綱幼稚園 4歳(東北) 小林圭音さん ..... 26  
酪農部だより / 全酪連ギフト商品について ..... 27

7月号

酪農とのかけはし / 株式会社菅原道北酪酪所 会長 菅原洋亮さん ..... 2  
父の日に牛乳を贈ろう! 前編 ..... 5  
品質保証室だより / 夏場のエサ管理 ..... 8  
第50回 らくのう子どもギャラリー 入賞作品紹介 ..... 10  
日本酪農見て歩紀 / 松田牧場 石川県珠洲市 ..... 14  
酪農トピックス / 盛況! 千葉県「ミルクフェスティバル2024」今年も開催!!(東京)ほか ..... 18  
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和6年6月) ..... 23  
今月の表紙 / モーモーちゃん、いつも美味しいお乳を出してくれて、ありがとう♥ ..... 25  
今月の子どもギャラリー / 会津若松市立鶴城小学校 6年(東北)の菊地遥空さん ..... 26

8月号

若手後継者の本音 / 佐々木隆宏さん、智也さん ..... 2  
第75年度(令和6年度)通常総会開催される 概要 ..... 4  
第51回 全国酪農青年女性酪農発表大会 酪農経営発表の部 ..... 6  
父の日に牛乳を贈ろう! 後編 ..... 10  
日本酪農見て歩紀 / ベルちゃんたちのおうち株式会社 山口県下関市菊川町 ..... 15  
酪農トピックス / 全国農協乳業協会「令和6年度クレーン対応研修」の開催について(酪農部)ほか ..... 19  
第14回 酪農いきいきフォトコンテスト 入賞作品紹介 ..... 22  
酪政連活動報告 ..... 23  
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和6年7月) ..... 24  
人事異動 ..... 26  
今月の表紙 / おうちへ帰ろう ..... 27  
今月の子どもギャラリー / 会津若松ザベリオ学園小学校 4年(東北) 藤谷桃音さん ..... 28

9月号

酪農とのかけはし / 齊藤達夫先生 ..... 2  
第75年度(令和6年度)通常総会開催される 詳細報告 ..... 5  
第51回 全国酪農青年女性酪農発表大会 酪農意見・体験の部 ..... 8  
購買生産指導部だより / DMSシステム 2023年集計結果 ..... 12  
日本酪農見て歩紀 / 小原牧場 大分県杵築市 ..... 14  
酪農トピックス / 全国農協乳業協会 能登半島地震における支援物資調達協力について、農林水産大臣から感謝状を授与されました(酪農部)ほか ..... 18  
広告 ..... 22  
全酪連仙台支所移転のお知らせ ..... 22  
(一社)全酪アカデミー活動報告 ..... 23  
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和6年8月) ..... 24  
酪農経営統計調査当農類型別経営統計にご協力ください ..... 26  
今月の表紙 / 未来は明るい ..... 27  
今月の子どもギャラリー / 岩国市立錦中学校 2年(西日本)の榎本美幸さん ..... 28

10月号

若手後継者の本音 / 平野友博さん、政子さん ..... 2  
酪農業に対する理解醸成活動 新宿で開催 ..... 4  
酪農部だより / 全酪連おすずめ乳製品のご紹介 ..... 6  
日本酪農見て歩紀 / 須藤牧場 千葉県館山市 ..... 8  
酪農トピックス / 全国農協乳業協会「女性職員向けキャリア研修」を開催しました(酪農部)ほか ..... 11  
酪政連活動報告 ..... 14  
広告 ..... 14  
ひろらく(広島県酪農業協同組合)のイメージキャラクター名前募集 ..... 15  
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和6年9月) ..... 16  
酪政連活動報告 ..... 18  
今月の表紙 / ダメって言ったでしょ! ..... 19  
今月の子どもギャラリー / 田原市立泉保育園 6歳(中部)の伊藤聡一さん ..... 20

11月号

酪農とのかけはし / 美濃酪農農業協同組合連合会 酪農購買部 酪農購買課 廣瀬太一職員 ..... 2  
総務部だより / カスタマー・ハラスメントについて ..... 4  
日本酪農見て歩紀 / 三浦牧場 青森県十和田市 ..... 6  
酪農トピックス / 北海道酪農青年女性会議「牛乳が飲みたくなる食べ物と言えよ!」(札幌)ほか ..... 9  
(一社)全国酪農協会の 酪農共済制度のご紹介 第1回 ..... 13  
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和6年10月) ..... 14  
酪農青年年金オンラインセミナー ..... 16  
今月の表紙 / どお? かわい! 私も写真撮って! ..... 17  
今月の子どもギャラリー / 佐世保中央保育園 5歳(九州)の大瀬柚希さん ..... 18  
酪農部だより / 全酪連ギフト商品について ..... 19

12月号

若手後継者の本音 / 西村翔さん ..... 2  
第28回 ロイヤル・ウィンターフェア視察とカナダ酪農視察研修 ..... 4  
全酪アカデミー 修了生 3組目が福岡で就農開始 ..... 8  
令和6年度 製造技術体験発表会・研修会を開催いたしました ..... 10  
酪農業に対する理解醸成活動報告1 ..... 12  
日本酪農見て歩紀 / 馬場牧場 北海道夕張郡由仁町 ..... 14  
臨時総会開催される ..... 17  
酪農トピックス / 「商品開発研修会」及び「営業交渉研修」の開催について(酪農部)ほか ..... 18  
(一社)全国酪農協会の 酪農共済制度のご紹介 第2回 ..... 23  
(一社)全酪アカデミー活動報告 ..... 24  
酪政連活動報告 ..... 24  
第7回 らくのうマルシェ開催のお知らせ ..... 25  
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和6年11月) ..... 26  
今月の表紙 / イケメンの搾乳風景 ..... 28  
総目次 ..... 29  
今月の子どもギャラリー / 郡山市立芳山小学校4年(東北) 小野翔太さん ..... 30

今月の

らくのう

こどもギャラリー 入賞作品紹介



ぼくの大好きな牛乳と赤べこ  
郡山市立芳山小学校 4年（東北） 小野翔大

今月の入賞作品は…

郡山市立芳山小学校 4年（東北）小野翔大さんの作品です。

牛乳を持って微笑む翔大君の横には、なぜか福島の民芸品である巨大な赤べこが描かれています。更にこちらを見つめるホルスタイン牛や、遠景には寝そべるジャージ牛などが配置され、構図も発想もとてもユニークな作品です。多種多様な生き物やお土産がひとつの空間に並ぶ非現実感が、この絵の最大の魅力です。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第50回らくのうこどもギャラリー」で全国255点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議